



人形劇豊丘公演 ひよっこりひよたん島 オンステージ

8月6日 ゆめあて



第678号
 発行人 ● 豊丘村公民館 館長 原 国人
 編集人 ● 長野県下伊那郡 豊丘村公民館報 編集委員会
 0265-35-9066
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村
 (8月1日現在 ※外国人を含む)
 男 3,344人
 女 3,413人
 総人口 6,757人
 世帯数 2,127戸

ひよっこりひよたん島が25年ぶりに 豊丘にやって来た

五十年ほど前に、日本中の子どもたちが熱中したテレビ番組「ひよっこりひよたん島」。二十五年前に人形劇豊丘公演が始まり、第一回公演はそのひよっこりひよたん島でした。あれから更に二十五年。あの懐かしい人形たちが三百人余の観客の前に現れ、定番の曲とともに、楽しいお話を繰り広げ、夢のような夏のひと時を過ごしました。

世代を超える 漂流物語

編集委員
藤沢 萌々香

八月六日、ゆめあてにて人形劇団ひとみ座による『ひよっこりひよたん島』の人形劇が行われた。ひよっこりひよたん島は昭和三十

十九年から四十四年の五年間、NHK総合テレビで千二百二十四回に渡り放送された人気番組であり、誰もがその名を耳にしたことのある名作である。今回多くの家族連れで会場は賑わい、この公演の人数が振りかえると、若い頃を思い出した際には盛大な拍手と驚きの声が上がった。

公演後に来場者に感想を聞くとき、若い頃番組で流れていた歌の数々を耳にする感動や、実際に味良いリズムで紹介してくれ、一気に物語の中に引き込まれていく。劇中の人形劇の歴史や人形劇にまつわる言葉、操作方法など、物語だけでなく人形劇についても興味深い話をしてくれた。たった七名のスタッフで操られていたとは思えないほど多くの人形が忙しく動き回り、実際に人形を操るスタッフの方々が挨拶で姿を現した際には盛大な拍手と驚きの声が上がった。

公演後に来場者の見送りをしてくれ、キャラクターと記念撮影もすることができ、終始和やかな公演となった。

番組を観たことのない幼い子ども達も、ユーモアたっぷりな物語や実際の公演でしか観ることのできないリアルな動きに大満足といった様子だった。終了後にはスタッフ全員で人形片手に来場者の見送りをしてくれ、キャラクターと記念撮影もすることができ、終始和やかな公演となった。

お馴染みのキャラクターがお見送り

一蹴入魂 豊丘中学校サッカー部 北信越大会出場

最後の夏
サッカー部主将
島 勇毅

僕たちの夏は、北信越大会で終わりました。今思ふことは、周りへの感謝の気持ちです。今年の一月、新年を迎えチームで今年の目標を県大会出場に決めました。目標のため日々厳しい練習を重ねてきました。そして最後の夏の中学生連が始まる、下伊那大会で優勝。南信大会で県大会の切符をかけた激戦の末、準優勝で県大会出場という目標を果たしました。目標は達成しましたが、

さらに上を目指し、県大会へ臨みました。県大会は未知の世界だったため、容易く北信越大会を目指そうとは言えない状況でしたが、県大会が近づくにつれて自然と自信が付き、そんな中迎えた県大会。決勝まで無失点で勝ち進み、県大会準優勝で北信越大会を決めました。僕たちの中学生最後の試合となった北信越大会第一回戦。石川県二位の小松南

部中学校との試合。僕は全く負ける気はなく、全国大会に絶対行くと思っただけで、二一で敗れました。これほど悔しいと思っただけで、初

め、全てのこと今思ふのは、感謝。これだけです。

この夏を通してたくさん経験を学びました。これからのメンバーは、今だから、このメンバーだからこその経験が、一人でも欠けたらここのまま来れなかったと思う程、一人一人が個性溢

れる主力的なメンバーでした。そして、ここまで僕たちを成長させてくださったのは、唐澤先生をはじめとするコーチの方々と正面から向き合い、選手の味方をしてくださりました。唐澤先生をはじめとするコーチの方々は、世界一の指導者です。コーチも含め、二十八人の豊丘中サッカー部。このメンバーに会えて本当に良かったです。心から思います。保護者の方々、応援してくださった方々も含



豊丘中サッカー部の精鋭たち

(小池淳子)

段丘

時事問題セミナー 教えて!? 世界の今。 3回連続講演会終わる

ちいさな村から
世界を想う

成人講座運営委員
昼神賢児

今年度の時事問題セミナーは「教えて!?世界の今。」と題し、六月十七日・七月八日・七月二十六日に欧州・中東、そして中国、それぞれに明るい識者三名をゆめあるてにお迎えし講演をいただきました。今更ながら私たちは世界の一部であり、一員であると気づかされる三回とも非常に内容の濃いセミナーとなりました。

毎日新聞・前ウイーン支局長の坂口氏には、欧州への移民難民は生きた情報(SNS中心)が大切でスマホは手放せず、無料WiFiはiと電源が命綱であること、同志社大学大学院教授内藤氏には、ムスリム同胞団の実態とイスラム世界の戒律に對して誤解があり、私たちが得ている中東の情報にプロパガンダである可能性を排除できないこと、中日新聞・東京新聞論説委員・前上海支局長の加藤氏には、隣国中国には習近平といふかなりの野心をもった指導者が君臨しており、対峙するには私たちがも相当の覚悟を必要とすることなど、今回三人の講師は現地における実体験を基にした生きた情報と提言を私たちに提供してくださいました。

南信州の安穩で生活する私たちにとって、近世に由来する世界各地の混沌とイデオロギーの対立は、とも



聴講者からは質問も

すれば遠い世界の話かもしれませんが、しかしながら戦後七十年を過ぎ先人達の努力によって保たれるこの安寧に永久の保証がないことは、歴史からも現在の世界情勢からも明らかです。今この時こそ歴史に時事に学び、私たちの基軸と行路を熟考すべき時なのかもしれませぬ。私もスタッフの一員として参加しましたが、小さな村でこのような講座が開催できる今の状況と、知的好奇心を

満たす喜びが如何に尊いかを再確認できるこのようなセミナーの企画運営を行っていたいただいた公民館と、成人講座運営委員会に感謝申し上げます。

リニアの声

第13回

本山残土置き場候補地の要望書も認められない

伴野原 章

これは、長野県の正式の見解です。

本山残土土地使用の「同意の決定は無効」となったことは、新聞記事にもなり、よく知られていることです。しかし、本山を残土置き場候補地として本山生産森林組合が村へ要望書を提出したことも無効だといふことは、多くの人が知らないことだと思えます。このことは、私が長野県に何度か問いただしている

中で、南信州地域振興局林務課林務係の担当係長が「二応調べてみましたら、二十五年度の三月五日に総代会において残土置場の決定をして村へ申請をしたということのようです。それで理事会ですとか総代会ですとかは、定款の方で決められたものでない(という)ことで、それは無効ではないかという判断で御座います。」と回答(六月十五日)をもらって確認できたことです。



36災の上流からの大量の土砂と激流で、氾濫寸前の蛇川の様子(天竜川へ合流する付近)
～天竜川上流河川事務所の「語りつく“濁流の子”アーカイブス」より～

認められない理事や総代会が行ったことなので「要望書も認められない」となったわけでは

「認められない」としたことは、大変に重要で、本山生産森林組合が再建・正常化して認められる組織ができたから、もうやめた方がよいと思えますが、村へ要望書を

出す所からもう一度やり直すことになったわけでは、また、これまでの本山残土置き場に関する一連の動きは当然に無効です。

物事を正しく理解する上で大切な情報なのに、今回の見解は、なかなか出してもらえず、県から村やJR東海に通知もされず、全く公になっていません。

(七月七日)それで、私はお知らせしなきゃと考えました。これからは、残土置き場の問題が、開かれた民主的手続きの中で、災害の危険性や下流住民への影響なども十分に配慮し考えられていくべきです。

第29回 24時間ソフトボール大会
日時 8月26日(土)27日(日)
26日午後3時から
27日午後3時まで
場所 南小グラウンド
ぜひ応援に来てね!!

投稿 教育勅語について思う
南市場 日下部富次

最近俄に教育勅語が問題になってきた。その発端が森友問題である。安倍総理夫人の昭恵氏、前防衛大臣の稲田氏などから称賛の聲がでる始末。更に憂慮されるのが勅語の後半に示されている部分、「一旦他国と争い(戦争)が起されば国や朕(天皇)のために生命を捧げなくてはならない。これは歴史のためだけでなく長い歴史をもつ日本のためであるのだ。……以下略」この部分が最も重要であり問題なのである。この教えによつて軍部が天皇を利用し何回もの戦争を起し、殺し殺された人々が莫大な数に上

がったことに思いを致さなければならぬ。なにに私達の身近な人々からも賛成の聲が聞こえてくるのだ。こうした教育勅語を幼稚園児に誦(そ)んじさせている園もあるとか。「素晴らしい理念が書いてある。(総理)」「道義国家を目指すという教育勅語を取り戻すべきだ。(稲田前防衛相)」「立派なことを書いてあるのだから教材(道徳)として使用することを否定できない(閣議決定)」。

日本の平和を進めなくてはならないこうした立場の人々が、なんと日本を軍国主義国家へと逆戻りさせようとしているのだ。言葉は恐ろしい。私達は美辞麗句に惑わされ、死(戦争)への道へ導かされていくことに気づかなければならない。さもなくば私達が辿った少女時代に逆戻りしてしまう。しかも一旦戦争が起れば、あつという間に死滅への道に墮ちてしまう。戦中派の私達は軍国教育によって洗脳され、死を恐れない国民に育てられた。その基本的支柱はこの教育勅語にあったのだ。平和な世界を欲するならば、最近の世界の動きに注目し批判することは大切なことであろう。

とにかく県の見解によりゼロから考え直す事になりました。これからは、残土置き場の問題が、開かれた民主的手続きの中で、災害の危険性や下流住民への影響なども十分に配慮し考えられていくべきです。

大正九年生まれの九十七歳とは思えないしつかりした足取りでお見えになった。四人きょうだいの長男(三人は女性)として生まれたが、当時、神栖地区で上位に入る規模の養蚕、及び水田を営む農家であった。その内容は柱、梁など立派な造りの家からも伺い知ることができ、幼少時から特段の不自由を感じることなく育った。近所に住む同年代の友達と野山を駆け回り、遊び、四年生までは近くにあった分校に、以降は片道一時間ほどかけて本校へ

幸運にも二十一年に無事帰還できた。戦後親睦を深めていた前橋士官学校戦友会で、高野山に慰霊塔を建立しており、その後没した方々も名を刻んでいるので、その折には是非名を連ねてあげたいという家族の方の言葉には重みがあつた。帰国後は農業に専念して

以前は旅行が楽しみであつたが、今は曾孫を膝に入れたテレビを見ること、週に四日宅老所「きずな」で行なう、職員や利用者の方々との会話である。家族と一緒にのんびりと暮らすことが健康維持の秘訣と感じた。

シリーズ「元気な高齢者」(35)
環境に恵まれ自然に備わった健康体
松尾 馨(かお)さん
九十七歳
本村在住



幸運にも二十一年に無事帰還できた。戦後親睦を深めていた前橋士官学校戦友会で、高野山に慰霊塔を建立しており、その後没した方々も名を刻んでいるので、その折には是非名を連ねてあげたいという家族の方の言葉には重みがあつた。帰国後は農業に専念して

以前は旅行が楽しみであつたが、今は曾孫を膝に入れたテレビを見ること、週に四日宅老所「きずな」で行なう、職員や利用者の方々との会話である。家族と一緒にのんびりと暮らすことが健康維持の秘訣と感じた。

文責 桐崎 長一 宮下 正弘

第5分館 バスハイク

社会部 林 達也



第五分館では、本年新たな分館事業として研修旅行を七月二十三日(日)に実施しました。例年ですと、夏季スポーツ大会・運動会の年ですが、この二事業をお休みする代わりに、本年に限り実施する区民総参加可能な事業として企画実施されました。

内容は、中部国際空港(セントレア)の見学を中心とした、東海方面への日帰り研修旅行で、大型観光バス二百台より総勢七十三名の参加となりました。

参加者の年齢も、最年少は二歳の幼児から、最高齢は七十三歳の方まで幅広い年齢層の皆さんにご参加いただきました。

企画の段階から、公民館事業である事を意識し「単なる慰安旅行」とならないように、また、できるだけ多くの方のご参加をいただけるように、開催時期・方面等の希望をお聞きするアンケートを事前に行いました。内容決定を行いました。

結果、開催日については夏の農作業の合間の時期、午後十時に終了出来ました。地域の皆様の多忙な仕事の合間の一服にお役にたいたいという主旨で行っており、参加していただいた第三分館の大勢の皆様のおかげで協力出来たものと思っております。納涼祭に参加させていたいただいた役員一人として、準備から始まり、担当の各部門の業務が無事終了出来た事について、大変にご苦労様でした。当日の林公園に集まった、分館内の大勢の人達の連携のとれ

研修場所に名古屋市港防災センターを含める等の工夫がされました。

アンケートの回答の中には、「研修旅行では、高齢者は参加しづらい」、「参加者のみの交流事業となってしまう」といったご意見もいただきましたが、参加者の皆さんからの感想は概ね好評で「普段は会話することもない方も和気藹々と参加できた」といったご意見をいただきました。

山間地の分館では構成メンバーの高齢化も進み、従来形態でのスポーツ事業等は継続が難しい面も出てきています。チーム構成等を工夫しながら実施を続けており、その事業の重要性も十分感じている中で「試み」としての今回の研修旅行でした。

分館行事を考える一事例として検証を行い、今後に生かしてゆければと思います。

た事はこれから先、次の納涼祭への継続も必要かと思えます。林公園の納涼祭に参加していただいた皆様ありがとうございました。

おおむね商品を大量に購入すると、割安お得感はある。乗り物も長距離ほど割安であることは、自動車道も鉄道も同じだ。ところが、旧国鉄のそれは当時格段に割引率が高かった。鉄道の一枚のキップで回ると、かなり割安になる。ちなみにJRになった現在でも豊橋まで行くのに、市田からでも飯田からでも同じ料金であるが、市田から飯田までは二百十円だ。したがって、如何に一枚の切符で距離を伸ばすが安上がりの旅が出来たかの勝負であった。地図と時刻表のにらめっこで、なかなか難儀だ。この地からだと、辰野か豊橋へ出るより方法が無い。この事実は何十年と変わっていない。もし飯田線の一部が廃

第3分館 納涼祭

社会部 森田元紀



公民館の恒例行事である納涼祭が七月二十九日土曜日に林公園駐車場で開催されました。第三分館では林里、林原、木門の地域の活動にあたり、役員は全員で二十一名です。納涼祭は二年に一回隔年で実施されています。本年は前回の行事を参考にさせてもらい実行しました。当日は天候が心配でしたが幸い少雨で済みました。午後一時に準備を始め午後六時の納涼祭開始後は天候も崩れる事なく、

公民館の恒例行事である納涼祭が七月二十九日土曜日に林公園駐車場で開催されました。第三分館では林里、林原、木門の地域の活動にあたり、役員は全員で二十一名です。納涼祭は二年に一回隔年で実施されています。本年は前回の行事を参考にさせてもらい実行しました。当日は天候が心配でしたが幸い少雨で済みました。午後一時に準備を始め午後六時の納涼祭開始後は天候も崩れる事なく、

午後十時に終了出来ました。地域の皆様の多忙な仕事の合間の一服にお役にたいたいという主旨で行っており、参加していただいた第三分館の大勢の皆様のおかげで協力出来たものと思っております。納涼祭に参加させていたいただいた役員一人として、準備から始まり、担当の各部門の業務が無事終了出来た事について、大変にご苦労様でした。当日の林公園に集まった、分館内の大勢の人達の連携のとれ

形態でのスポーツ事業等は継続が難しい面も出てきています。チーム構成等を工夫しながら実施を続けており、その事業の重要性も十分感じている中で「試み」としての今回の研修旅行でした。

分館行事を考える一事例として検証を行い、今後に生かしてゆければと思います。

山間地の分館では構成メンバーの高齢化も進み、従来形態でのスポーツ事業等は継続が難しい面も出てきています。チーム構成等を工夫しながら実施を続けており、その事業の重要性も十分感じている中で「試み」としての今回の研修旅行でした。

分館行事を考える一事例として検証を行い、今後に生かしてゆければと思います。

た事はこれから先、次の納涼祭への継続も必要かと思えます。林公園の納涼祭に参加していただいた皆様ありがとうございました。

おおむね商品を大量に購入すると、割安お得感はある。乗り物も長距離ほど割安であることは、自動車道も鉄道も同じだ。ところが、旧国鉄のそれは当時格段に割引率が高かった。鉄道の一枚のキップで回ると、かなり割安になる。ちなみにJRになった現在でも豊橋まで行くのに、市田からでも飯田からでも同じ料金であるが、市田から飯田までは二百十円だ。したがって、如何に一枚の切符で距離を伸ばすが安上がりの旅が出来たかの勝負であった。地図と時刻表のにらめっこで、なかなか難儀だ。この地からだと、辰野か豊橋へ出るより方法が無い。この事実は何十年と変わっていない。もし飯田線の一部が廃

夏の暑さも夏のみんな楽しんで分館レクリエーション

こちら資料館 176 河野村文書贈呈式

写真八月十日(木)に村長室で行われた「河野村文書」の贈呈式の様子です。

立正大学の先生が河野村の名主家文書を偶然手に入り、学生達と「河野村研究会」を立ち上げてその解読に挑戦していること、また、昨年夏には現地視察のため豊丘を訪れたこと等については昨年紹介しました。

今回は、古文書一五八点全ての解読を終了し、目録および全資料の翻刻を終えた研究冊子の刊行を終えたということで、教材として使用した古文書を村に寄贈しようと研究会の有志が

本村を訪れてくれました。「最初は古文書特有の『くずし字』が全く読めなかった学生にとつて、河野村文書は記念すべき最高のテキストでした。」とは指導した藤井明広先生の思いです。寄贈された名主家文書は、江戸末期の天保から明治に至る約四〇年間のもので、領主知久家関係のものをはじめ、年貢、交通、訴訟、土地等、当時の庶民生活を知る貴重な史料です。中には、盗賊お仕置きの高

札、捨て子の処置など、素人目にも面白いものもあります。村では、文書の寄贈を有り難く受け、資料館に保管すると共に、希望があれば閲覧を許可します。公民館または資料館にお申し込みください。

(資料館主任 唐澤武彦)



立正大学河野村研究会から村長へ

鉄道全国旅歩き 第8回 周遊きっぷ

北市場三 山本義彦

おおむね商品を大量に購入すると、割安お得感はある。乗り物も長距離ほど割安であることは、自動車道も鉄道も同じだ。ところが、旧国鉄のそれは当時格段に割引率が高かった。鉄道の一枚のキップで回ると、かなり割安になる。ちなみにJRになった現在でも豊橋まで行くのに、市田からでも飯田からでも同じ料金であるが、市田から飯田までは二百十円だ。したがって、如何に一枚の切符で距離を伸ばすが安上がりの旅が出来たかの勝負であった。地図と時刻表のにらめっこで、なかなか難儀だ。この地からだと、辰野か豊橋へ出るより方法が無い。この事実は何十年と変わっていない。もし飯田線の一部が廃

線になれば周遊は出来なくなる。初めて組み立てたのが、辰野から塩尻(今は岡谷周り)。篠ノ井経由で信越線(今は、しなの鉄道)で小諸の懐古園へ。信玄が山本勘助らに命じて作らせた小諸城で、島崎藤村の千曲川旅情の歌は有名だ。崖下を流れる千曲川は、まさに古城云々の様だ。現在、桜の名所である新開の桜便りに載る。小諸から再び信越線が高崎へ。ここは古くから交通の要衝で、現在は上越及び北陸新幹線の分岐点にもなっている。ここで一泊。翌朝早い汽車で今度は上越線の乗客となる。新幹線が出るまでは越後へ出るまでが大変だった。SLが牛歩のごとく、あえぎながらループ状のトンネルで峠を越えるのである。スイスに有名なルー

こうして越後に出るのだが、川端康成のトンネルを抜けると雪国だった、ではないが七月であったため、青々とした水田が眼前に開け、伊那谷に住む身には初めて見る越後平野の広大さは驚きであった(北海道より前に行ったため)。東三条で弥彦線に乗り換え弥彦山の山頂までロープウェイで、日本海の眺めは素晴らしく佐渡が眺望できる。展望食堂で昼食、だったので此処まで半日ばかりで、今では嘘みたいだ。越後線で新潟へ、新潟港から佐渡に渡り両津港近くの山形屋旅館で一日を終えた。明日は佐渡一週だ。次回へ続く。

あずきよろい 武田英史

お冬さんは下村の山の方の生まれで、ここへお嫁に来て三年ばかり経った。今はもうでもないがそのころの嫁と姑は、昔の軍隊の新兵と古兵のようなきびしい関係があった。どのような姑の言いつけも至上命令でただ「はいはい」と聞かなければならなかった。車屋(水車)での米搗ぎは、このお冬さんに課せら

れた役だった。車屋は家の上の道路端で仲間を使っていたが、家からはひどく急な坂道で、おまけに片側は竹藪で、その下は菅部川がゴーゴーと流れ、藪の中には樺などの大木が茂っていて、昼間でも陰気な薄暗い道であった。

お冬さんは今日も朝早く起きて車屋で車を回した。昼のうちは薄曇りの天気であったが、夕方からシポシポと小雨が降り出した。夕飯をすませてそろそろ米が掲げるところなので、お冬さんは

角桶を肩にかけ、ぶら提灯をつけて車屋へと坂道を上がっていった。坂の中ほどまで来ると下の藪の中で菅部川の流れる音に混じってザラザラザラザラと異様な音。なにか小豆をよるげ(転がして選別する)のような音だ。立ち止まってハテ、何の音かな? と不思議に思いついた。二足三足進むと、提灯の火がぼつと雨で消えてしまった。雨の夜の真っ暗闇。薄気味悪くなりぼんぼんの毛がゾクゾクとよだつような気になった。藪の方からガサガサと笹をゆする音がする。生ぬるい風がスツツと顔をなぞる。

と薄明るくなった途端、目の前にかつやま(丸まげ)に結った女の、見上げるようなすてでけえ大入道が二ヤリと笑って立っていた。お冬さん、キャツと悲鳴をあげて腰を抜かして一目散に逆戻りして家へ駆け込んだ。息を弾ませて家内中に話す。家族からは、阿呆面して歩くからムジナにやられたのさ、あずきよろいという大入道に化けたのさということになったぞうだ。車屋へは後に旦那さんと一緒に米上げに行ったが何事もなかったとか。

(豊丘村民話集・第巻 昭和五十二年)より

文責 壬生雅穂



当時の信越本線

豊丘の自然

~シリーズ~
No.165

アメリカザリガニ
(アメリカザリガニ科)



一九二七年（一九三〇年）に、食用や家畜の餌などのために北アメリカから移入。関東を中心に分布を広げ、今では、北海道から沖縄の各地にまで拡大。雑食性で、さまざまな環境の動植物を摂食する。絶滅危惧種を含む水生昆虫や魚類を捕食するし、水草を摂食・切断して水生植物群落を壊滅させる。稲の苗

(山田 栞)

中学生の確かな学力の定着を願う『豊丘みらい塾』が七月五日に開講しました。

この塾は、学校の教室を使い、教育委員会の事業として初めて開設される公設の学習塾で、当面中学三年生の希望者を対象にして、「数学」、「英語」、「理科」の三教科について、指定の参考書をもとに「復習」を中心にして毎週水曜日の放課後の一時間、来年の二月末まで二十八回に亘って開かれます。

豊丘みらい塾を開設することになったきっかけは、昨年度から始まったコミュニティスクールです。その運営委員会において「夏休みのみだけでなく、年間を通して学習支援を進めて行くことが、中学校生徒の学力向上にとって必要なのではないか」との意見をいただいたことからでした。

これを受けて、教育委員会では学校とも慎重に協議を重ね、当面は高校受験など進路選択が迫られる中学三年生を対象とすることとし、教科は、「英語」、「数学」、「理科」の三教科としました。それぞれの教科には、村内外から教職OBを中心として六名の講師陣をお願いすることができました。中には豊丘中学校の教壇に立った経験のある先生もおられます。

二つ目は「集中」です。皆さんと同じ中学三年の将棋の藤井颯太君が二十九連勝できたのも、「集中力」だと言われています。みらい塾の時間はとても大切な時間です。無駄にしないよう、集中して学んで欲しいと思います。

三つ目は「習慣化」です。実はこのみらい塾の本当のねらいは、そこにあります。学習を習慣化させることは、



二つズを把握し、三年生の八十%にのぼる多くの受講希望があったことから、公設学習塾開設に踏み切ったもので、中には複数の教科を受講する生徒もいます。七月五日の開講式において、大倉淳司教育長職務代理から、次のような激励の挨拶がありました。

『生徒の皆さんにお願いしたいことが三つあります。一つは、「主体的に」学んで欲しいということです。講師の先生が手取り足取り教えてくれるものではありません。分らないところがあつたら、どんどん講師の先生に聞いてほしいと思います。』

皆さんの学力の定着につながるものだと考えています。一週間に一回、一時間という時間ですから、家に帰ってから、あらためてドリルや参考書を開いて、自分の苦手なところをしっかりとクリアしてほしいと思います。

「豊丘みらい塾」を通して、「主体的」、「集中」、「習慣化」の三つのSを獲得して、皆さんの未来を確実に開いて行つてくれることを期待しています。』

(総合コーディネーター 原国人)



平成8年7月

日本の農村原風景が徐々に復活してきている。主食である「米づくり」が見直されている中で、最近注目されているのが、斜面を開墾し小さな田んぼをいくつも棚田式に耕作する、ここには昔ながらの田んぼが生活と共存していた。機械化が進んだ現代農業でも、田を起すことや苗を植えるにも、黄金に穂った稲を刈るにも、小さな機械で辛抱強く作業するしかない。これだけはいつまで経ってもほとんど変わることのない



のんびりとした里山
林原に隠れ里と「棚田」

野ざらしの仏息詰く四葩かな
青柿の葉裏葉表日のさやぐ
青鬼灯病みし友への一筆箋
雨がふり紫陽花の色あざやかに
山裾に大きな露のひしめける
細長き谷のすみまで梅雨夕やけ
雨の夜ライトに数多の雨蛙
雪渓を見せて無人の駆つづく
螢火の明滅滅の深かりき
還暦の我煽り立てをり螢の火
通勤の日々の新たな沙羅の花
母の忌や雨滴むすべり濃紫陽花
石さびぬ絵島の墓の苔の花



平成6年11月の柿平

秋には虻川の川霧が立ちこめる中に赤く実った柿が、蒼白い霧のベールに浮かび上がる。

今では半分ほどしか耕されていない林原の美しい棚田を、この先いつまで見ることができるのであろうか。

写真と文／宮下正弘

磯部セツ子
田中 静
片桐 洋子
下平 玲子
三島 保子
三島 里子
木下 眞水
松岡 照子
宮下 公
宮下 純子
林 恵美子
丸山 時子
北原 昭子

柳

〈豊丘川柳クラブ豊柳会〉

▼課題「旅」 久保ひろし 選

旅に出るドラマの佳境見る至福 安田 喜子
死出の旅母に似合わぬ白づくし 原 美風
旅先の星を浮かべて露天風呂 市沢 照子
人生はあの世へ向かう一人旅 桃沢 健介
軸吟：人生の旅は道連れあるが好い

▼課題「度」 互 選

一度でも体験したい砂被り 小澤 凛
度を越えたご丁寧にはちょっと引く 久保ひろし
瀬戸際に立って度胸が試される 林 桃子

▼自由吟 桃沢健介 選

政憲もアベノミクスも消え失せろ 吉川 燎
連勝もおごりもいつか止まるもの 山本 義彦
天の声おごる政権永からず 福沢 勝美
法案に議論足りぬと民怒る 西元 峯子
軸吟：鉄槌を下されボスの断末魔

〈短歌会 夢あるて〉

ひと粒も残しはせぬと背のびしてぐみを探る手の蟻を払いぬ 福澤貴美恵
みそ汁のだしは飛魚あとわずか屋久島の旅遠くなりゆく 眞由美
孫に桃送ったからねとメールする「うれしかった」と元氣な声が 筒井 恵子
七夕に姉弟三人顔あわす夜更けてもなお話は尽きぬ 松尾ヒサコ
しらびそで渡りの練習励みおる若いつばめに気持ち高ぶる 松下 泰見
老いてさし悲しみひとに見せまじと赤色おおきシャツを選べり 富永 博道

〈あしたば短歌会〉

梅雨の間のそよ風を受け公園で友との語らい話は弾む 久保田 妙
卒寿となり一日ひと日を重ねつつ生ける証に短歌を道連れ 毛涯百合子
水神様の傍えに咲ける一輪に「アザミの歌」を口遊みいる 大倉 知江
生徒らのボート遭難の歌読みて「真白き富士の嶺」に目頭うるむ 壬生 千春
梅雨空の先の猛暑日に思い馳せ友のくれたる路を煮付けける 北澤 秀子
待ち待ちし弁当温む教室に沢庵匂ひ来 だるまストーブ 福澤 亀人